A 試合会場レポート

試合番号 001　　開催日 2020/12/13

令和2年度 天皇杯・皇后杯 全日本バレーボール選手権大会 男子 ファイナルラウンド　　会場： 武蔵野の森総合スポーツプラザ

観客数： 0	開始時間： 12:00	終了時間： 13:17	試合時間： 01:17	主審： 原　啓之	副審： 服部　篤史

ジェイテクトSTINGS

監　督：高橋 慎治
コーチ：ファジャーニ フェデリコ

通　算：－ 勝　－ 敗
ﾎﾟｲﾝﾄ：　－

JTサンダーズ広島

監　督：原 秀治
コーチ：平馬 慶太

通　算：－ 勝　－ 敗
ﾎﾟｲﾝﾄ：　－

ポイント			ポイント
3	25	第1セット 【 00:24 】	21
	25	第2セット 【 00:22 】	18
	26	第3セット 【 00:25 】	24
		第4セット 【 】	
		第5セット 【 】	
－		【】内はセット時間	－
		（）内は交代選手	

第1セット　25 － 21

饒	フェリペ		山本	深津
久保山（金丸）	西田		小野寺	安永（合田）
藤中	福山		エドガー	武智

リベロ：本間　　リベロ：唐川

第2セット　25 － 18

饒（袴谷）	フェリペ		深津	安永（合田）
久保山（金丸）	西田		山本（井上(航)）	武智（井上(慎)）
藤中	福山		小野寺	エドガー

リベロ：本間　　リベロ：唐川

第3セット　26 － 24

饒	フェリペ		山本	深津
久保山（金丸）	西田		小野寺	安永（合田）
藤中	福山		エドガー	井上(慎)

リベロ：本間　　リベロ：唐川

第4セット

リベロ：　　リベロ：

第5セット

リベロ：　　リベロ：

＜監督コメント＞

今日の試合は全員が攻める姿勢を出し、苦しい状況でも我慢し乗り越える事が出来たと思います。
ファイナルに向けて、しっかりといい準備をしてすべてを出し切りたいと思います。
このコロナ禍の大変な状況下で大会が開催していただける事、本当に感謝いたします。
来週も引き続きよろしくお願いいたします。

＜監督コメント＞

今日も全員で戦いましたが、ストレートでの敗退となりました。
ラリー中切り返しの場面で決定打が出なかった事が敗因だと思います。
ブロックとレシーブの関係は良かったと思うので、この課題を今後の戦いに向けて修正していきたいと思います。

＜要約レポート＞

天皇杯準決勝に進出したジェイテクトＳＴＩＮＧＳと、ＪＴサンダーズ広島の対戦。
第１セット、互いにサーブで攻め、ＪＴは安永、山本のブロック、ジェイテクトも藤中、久保山のブロックで得点をあげる。接戦からジェイテクトは福山の連続ブロックでリードする。１度のアタックが決定しない中、ジェイテクト・久保山、ＪＴ・深津ともセンターへのトスを有効に使い、得点をあげていく。ジェイテクトは西田、フェリペの好打でリードを保ち、セットを先取する。
第２セット、前セットの勢いのままジェイテクトは福山のブロックで先取すると、西田、フェリペのアタックが決まり、最大７点のリードをつける。ＪＴは井上(慎)、井上(航)、合田と選手を交替し流れを変えようとするが、ジェイテクトは勢いを緩めずセットを連取する。
第３セット、ジェイテクトは西田、フェリペとサーブで攻め、得点につなぎリードをする。後のないＪＴは小野寺、エドガー、井上(慎)のサーブでチャンスを作り同点に追いつく。ＪＴはエドガーのアタックと、相手を崩すサーブで得点しリードを奪おうとするが、ジェイテクトは西田、饒のアタックで追随し、最後は西田が好判断のレシーブをあげ、フェリペがアタックを決め、ジェイテクトが決勝に駒を進めた。

作成者：高澤　佳江

※本票の著作権は、公益財団法人日本バレーボール協会に帰属します。